

いま子どもたちの性を大切にするために

大学講師

関口 久志

「お互い、初めてで避妊もなにもなかった」「なかなか子どもはできないからって言われて……」
 れらは、ともに高校のとき初めてのたった一回の性交で妊娠した女性の告白です。このほかに「性
 感染症になったけど、恥ずかしくて言えない」とか「同性愛者で何度も自殺を考えただけ、この授業
 で救われた」など様々な性の悩みや傷を背負った若者がいます。これらの声を聞くたびに、子ども期
 から興味本位の性をおおる社会と、それでいながら早くから適切な性教育を受ける機会を保障しない
 日本の現状に腹立たしい思いがします。そこで、この誌面では子どもを取り巻く性の現状と性教育の
 必要性について考えていきたいと思います。

社会が

子どもたちを大切にしているか

私の住む近くに梅林があります。週に
 一、二回散歩するのですが、この原稿を
 書いている二月初旬には、もう紅梅、白
 梅とも五分咲きくらいになってよい香り
 を放ち、行く人を楽しませてくれていま
 す。全体には五分咲きの早春の梅林、人
 間に例えれば思春期です。もう五分ほど
 咲いた木もあれば、まだつぼみがかい
 木もあります。ちょうど花開く時期を迎

え、それでいて個人差がまだまだある思
 春期なのです。それでもどの木もSMA
 Pのヒット曲のように「比べることなく、
 オンリーワン」として、やがては花開き、
 実をつける時期を待っています。

しかしこの前、残念な風景に出会いま
 した。よく咲いた木の下にビールとチュ
 ーハイの缶が散乱して、何本かの枝が折
 られて下に散らかっていたのです。私は
 缶を拾い、枝をきれいに掃除したのです
 が、思わずいまの子どもの性と社会
 をだぶらせて考えてしまいました。

性の環境も大切に

大切に育てたい子どもたちの性ですが、
 いまの社会環境をみると、とても大切に
 されているとは思えません。コンビニの
 雑誌や街角のポスター・チラシなど、子
 どもたちの目に触れ、手に取れるところ
 におとなの男性本意の性情報があふれ、
 援助交際やブルセラなど子どもたちの性
 を食い物にする商品化の仕組みがポツカ
 リと口をあけて、子どもたちを狙って
 います。このように子どもたちの性の環境

を悪化させているのも、子どもたちの性
 を利用するのもおとながつくり出した社
 会です。性を慈しみ育む環境を奪われ、
 冒頭の話のように性に傷つく子どもたち
 が増えています。ちょうど梅林の悲惨な
 光景と同じです。子どもたちの性をみる
 と、おとなたちのつくった社会とおと
 なの市民としてのモラル（道徳性）の在
 り方が問われているのです。

実際の話から

では子どもたちの性を大切にするため